



2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ
率先しよう
2006~2007年度
ウィリアム・ビル・ボイド

Weekly Report

創 立:1980年(昭和55年)1月10日
会 長:遠山 堯郎
幹 事:天野 正明
会報委員長:稲垣 豊
例 会 日:毎週木曜日 PM12:30~
会 場:ヒルトン名古屋
事 務 局:460-0008
名古屋市中区栄1丁目33
ヒルトン名古屋910号
T E L:052-211-3803
F A X:052-211-2623
M A I L:2760nagoya@mizuho.rc.jp
U R L:http://www.mizuho.rc.jp/

第1322回例会

ロータリー親睦活動月間

2007年6月14日(木) 晴 第44回

司 会:宗宮信賢会場委員
斉 唱:「我等の生業」
ビジター:名古屋RC 夏目和良さん

会長挨拶

遠山堯郎会長

第2次世界大戦の最後「日中の壁を越えた夫婦愛」の映画の挨拶をさせていただきます。中国最後の皇帝の弟、溥傑(ふけつ)と日本人妻の浩(ひろ)が支え合い、時代の荒波に立ち向かった実話をドラマ化した放送が3年ほど前にありました。中国清朝の「ラストエンペラー」溥儀の一歳違いの弟・溥傑は辛亥革命で清朝滅亡後、成人して日本に留学。その直後に日本の関東軍が中国北部で満州事変を起こして「満州国」建国。溥儀を皇帝に据えました。溥傑は士官学校を経て、日本陸軍に入隊しましたが、満州支配を強めたい関東軍は、皇帝一族と日本女性との「政略結婚」を画策・そこで、嵯峨野公爵家の浩(ひろ)に矢を立てました。日中の戦況悪化のなかで満州に渡った浩は、日本人嫌いの溥儀に心を痛めながら、誠実で穏やかな溥傑との愛を深め、二人の娘を出産しました。だが幸せは日本の敗戦で暗転して、引き裂かれた夫婦の流転の日々が始まりました。この脚本は二人の自伝をベースに感動と涙の物語の作家「星の金貨」の龍居由加里さんが手掛けました。溥傑役は竹之内豊さん、髪を刈り、常にメガネをかけて役作り、せりふの半分は中国語をマスター。対する浩役は常盤貴子さん。撮影は東京都内の空き地に長さ120mのセットを組み、満州の町並みを作ったそうです。衣装や小物類もトラック5台分を中国から取寄せました。生き証人も多いので徹底してリアリティーにこだわったそうです。3ヶ月かけた撮影は新型肺炎の余波で中国ロケが白紙にもどり大混乱しましたが、スタッフの活躍で代替地を確保、3日間の北京ロケも実現しました。堂々たる紫禁城を借り切った収録は海外作品では、映画「ラストエンペラー」以来だったそうです。私は、若い頃に芝居にのめりこんでいましたので、非常に印象が残っているドラマです。隠れた話では、中国最後の皇帝「溥儀」を救うために、現在の各務原市の航空自衛隊基地から離陸許可を待っていた人がいたそうです。戦争責任を論じられることが多くありますが、心温まる話です。



出席報告

市岡正蔵出席委員

会員73名 出席56名 (出席計算人数51名)

出席率82.35% 6月 7日は補填により 92.16%

幹事報告

天野正明幹事

・休会・退会について

- 水谷由紀夫さん…6/30付で退会
- 越原 一郎さん…7/1~1年間休会
- 細川 達也さん…7/1~半年間休会
- 入江 理さん…7/1~半年間休会
- ・本日、次年度予定者会議 9F「つるの間」です。
- ・次週6/21(木)は第5回クラブフォーラムです。
- ・例年通りニコボックス200万円を30周年事業基金として振替ることに決定しました。

臨時例会変更のお知らせ

名古屋西	6/28(木)※
名古屋みなと	6/29(金)※
名古屋東南	6/27(水)
名古屋中	6/25(月)
名古屋名北	6/27(水)
名古屋千種	6/26(火)
名古屋大須	6/28(木)※
名古屋栄	6/25(月)◆
名古屋名駅	6/27(水)
名古屋昭和	6/25(月)
名古屋西南	6/28(木)
名古屋錦	6/26(火)※
名古屋空港	6/25(月)
豊山一城北	6/26(火)

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。
◆はサイン受付時間が17:00~18:00となります。

ニコボックス

市岡正蔵ニコボックス委員

- ・今月26日は私の誕生日です。年齢が増えることはあまり嬉しいことではありませんが、20年前と比べ記憶力、ドライバーの飛距離とも変わっていませんので、まだまだ若手のつもりです。
梅田 朋嗣さん
- ・昨日13日は誕生日でした。私も還暦になり赤いボクサーパンツをはきました。
松波 恒彦さん
- ・6月27日は私等の結婚記念日でした。
岩田 吉廣さん
妻の誕生日にお花をいただきありがとうございました。
平野 好道さん
- ・休会が続き失礼しています。本年度もいろいろとお祝いをいただきありがとうございました。
越原 一郎さん
- ・先日、遠山会長に何かとご配慮いただきありがとうございました。遠山会長、天野幹事残り3回頑張ってお務め果たして下さい。
稲葉 徹さん
- ・第15回目のホテル観賞会に参加をありがとうございました。観賞会が終わってから小串さんのご厚意で宴会の席を設けていただき重ねて御礼申しあげます。
遠山 堯郎さん



先週、地区の地区役員会長幹事会がございました。その折に、青少年育成基金のための7月1日施行の新規事業の設立のことでガバナー賞をいただきましたのでご報告いたします。

委員会・同好会報告

野球同好会：長瀬憲八郎さん

春の野球大会について(6/16(土)ナゴヤドームにて)今週16日(土)ナゴヤドームで野球があります。出席と返事を出された方は、人数が足りていないそうですので、無断で休まないようにして下さい。ナゴヤドーム正面に10:30集合です。11:00からプレーですので、遅れないようにして下さい。

卓話

「民衆のために生きた土木技術者たち」

今日の卓話は私、遠山になっています。卓話はビデオ鑑賞にさせていただきます。ビデオ内容は、3人の土木技師の業績内容のコピーをお渡しますが、明治から昭和に掛けて、苦難の中にいる民衆を救済するために、卓越した土木技術を駆使した土木技術者、青山士(あきら)のパナマ運河、宮本武之輔のダム建設、八田與一の台湾を農業国にした技術者です。



3人のうち、20世紀最大の事業と言われた荒川放水路工事の難関、岩淵水門の建設、また信濃川の洪水氾濫は、農民が「子女を売る」ほどの苦しみにあえいでいました。大正12年に完成した分水路は、昭和2年に流量調節を担う自在堰の陥没事故で越後平野が干上がりしました。新可動堰の建設にあたった宮本技士が昭和5年7月の猛烈な集中豪雨で、氾濫の危機が迫り、村人を守るか、建設現場を守るかの苦しい選択を迫られ、宮本技士は村人を救うために、仮締め切りを切れと指示した内容について、27分間のビデオをご覧ください。

あらすじ

◆青山士は一高時代内村鑑三に深く傾倒し、彼の勧めで東京帝大工科大学に入学、廣井勇に学んだ。卒業すると「生涯一つでも人類のためになるような仕事をしてから死にたい」とパナマ運河工事に参加するために単身アメリカに渡った。

◆「神の見捨てた地峡」と言われたジャングルでの運河開削工事は苛酷を極めた。最初ポール持ちとして採用された彼は、1年後には測量技師補、3年後には測量技師、6年後にはパナマ運河の生命線である



ガンツ閘門の設計部に抜擢された。しかしその翌年、アメリカでスパイと疑われ、突然辞表を出して帰国した。しかし現場では「技量・仕事ぶりともに最優秀であった」と高く評価されていた。

◆彼は帰国後、20世紀最大の事業と言われた荒川放水路工事の最重要最難関の岩淵水門を建設、東京を常習的な洪水氾濫から救った。

◆かつては信濃川は洪水氾濫が多く、越後平野の農民は「子女を売る」ほどの苦しみにあえいでいた。江戸時代から分水計画が立て

られたが、それは明治29年の未曾有の大洪水を契機として、明治42年内務省の直轄工事として着手された。分水路は大正12年に完成し、農民の200年に渡る悲願が達成された。

◆ところが昭和2年、流量調節を担う自在堰の陥没事故が発生、越後平野が干上がった。そこで若きエース宮本武之輔が新可動堰の建設に当たることになった。



◆彼は小学生の頃、父親が事業に失敗し、全財産を失って一家が離散した。彼は中学に進学できず、瀬戸内航路の貸客船のボーイとなって家計を助けた。この悲運の体験が彼を終生「弱者の味方」に立たせることになった。昭和3年1月、新しい可動堰の建設が開始され、工事が終わりに近づいた昭和5年の7月末、猛烈な集中豪雨に襲われた。氾濫の危機が迫り、宮本は村人を守るか、建設現場を守るかの苦しい選択を迫られた。彼は村人を守るために仮締め切りを切れ!と命じた。完成間近の建設現場は惨憺たる有様となった。こうし苦難を経て新しい可動堰は昭和6年に竣工した。以来、信濃川は2度と牙をむくことなく、越後平野は日本の代表的な米作り地帯へと生まれ変わり、農民たちは苦しみから救われた。

◆台湾でただ一つ日本人の銅像がある。八田與一の銅像である。彼はユニークな発想をする学生であった。大学を卒業すると直ちに日本統治後15年の台湾へ渡り、台湾総督府の土木局に入った。

◆台湾最大の嘉南平原は洪水、干魃、塩害の三重苦が支配する不毛の大地であった。彼は農民が想像を絶する苦難の中にいる姿を見て、嘉南平原を灌漑する計画を立てた。

◆しかしこの広大な平原を潤すには水量が足りなかったため、彼は平原を3区域に分けて嘉南の人々が等しく水の恵みが受けられるように「3年輪作給水法」を考えた。

◆この雄大な嘉南大圳計画は大正9年に着工され、世界でも珍しいセミ・ハイドロリックフィル工法(湿式工法の土堰堤)の鳥山頭ダムと、総延長が地球を半



周する長さの給排水路を嘉南平原に張り巡らす工事が開始された。◆昭和5年、世界で3番目の巨大なダムが完成し、その水が給排水路を流れて嘉南平原を隅々まで潤していった。不毛の大地の嘉南平原は台湾最大の穀倉地帯に変貌し、60万の人々が救われた。人々は彼を嘉南大圳の父と仰ぎ、彼が工事中によく地面に腰を下ろして髪をいじっていた姿の銅像をたてた。

◆昭和17年5月、彼はフィリピンの灌漑計画の調査のために、広島の子品から大洋丸に乗り込んだ。その大洋丸が東シナ海を航行中、アメリカ潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没した。嘉南の人々は日本式の墓を作って埋葬し、今なお命日に追悼式を行っている。



◆民衆のための血の通った土木技術が、何時までも人々の心の中に生き続けていくのである。

今週行事

6月21日(木)

第5回 CF(年次総会)

次週行事

6月28日(木)

年度反省会：18:00～20:00
於：松楓閣